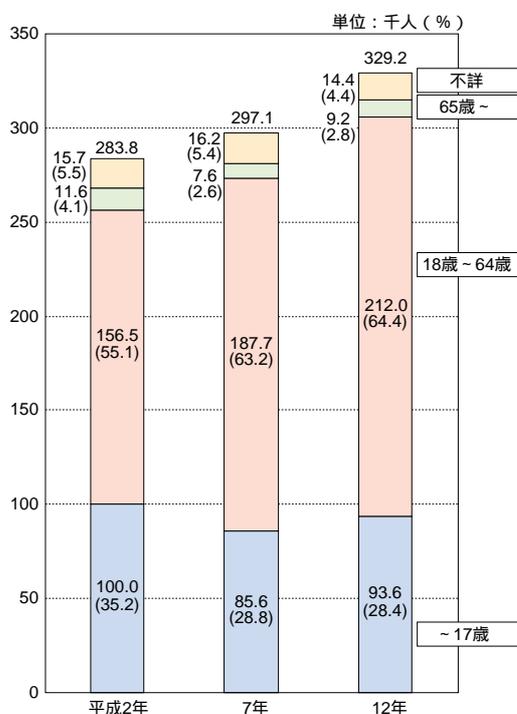


2. 知的障害者

在宅の知的障害者32.9万人の年齢階層別の内訳を見ると、18歳未満9.4万人(28.4%)、18歳以上65歳未満21.2万人(64.4%)、65歳以上0.9万人(2.8%)となっている。身体障害者と比べて18歳未満の割合が高い一方で、65歳以上の割合が低い点に特徴がある。

65歳以上の割合の推移を見ると、ほぼ2%台で推移している。知的障害は発達期に現れるものであり、発達期以降に新たに知的障害が生じるものではないことから、身体障害のように人口の高齢化の影響を受けることはない。一方で、調査時点である平成12年の高齢化率17.3%に比べて、知的障害者の65歳以上の割合が6分の1以下の水準であることは、健康面での問題を抱えている者が多い状況を伺わせる。

図表1-4 年齢階層別障害者数の推移(知的障害者・在宅)



注：平成2年の年齢区分は「～17歳」、「18～59歳」、「60歳～」、「不詳」。

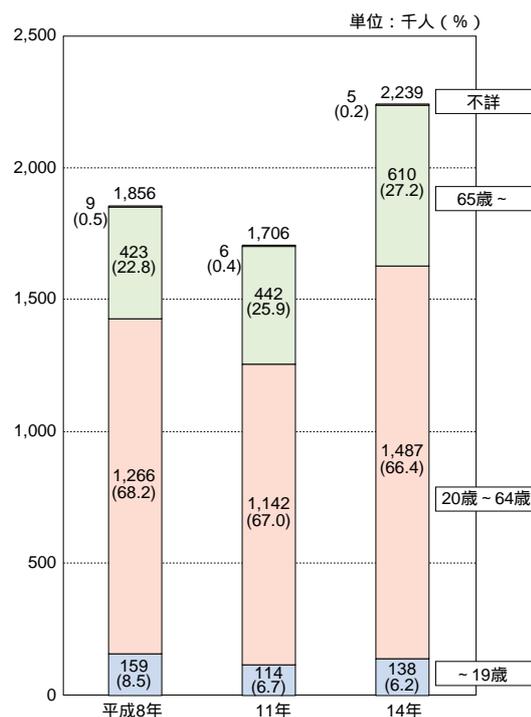
資料：厚生労働省「知的障害児(者)基礎調査」

3. 精神障害者

外来の精神疾患患者223.9万人の年齢階層別の内訳を見ると、20歳未満13.8万人(6.2%)、20歳以上65歳未満148.7万人(66.4%)、65歳以上61万人(27.2%)となっている。調査時点の平成14年の高齢化率18.5%に比べ、若干高い水準となっている。

65歳以上の割合の推移を見ると、平成8年から平成14年までの6年間で、65歳以上の割合は22.8%から27.2%へと上昇している。

図表1-5 年齢階層別障害者数の推移(精神障害者・在宅)



注：「精神障害者・在宅」とは外来の精神疾患患者である。

資料：厚生労働省「患者調査」より厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で作成